

2015年9月1日
日本銀行富山事務所長
武田 英俊

「夏休み銀行探検隊」に参加して

少し前になりますが、7月28日（木）に富山県銀行協会主催、富山県金融広報委員会（知るぽると富山）共催¹で「夏休み銀行探検隊」が開催されました。

「夏休み銀行探検隊」は、金融教育の一環として県内の小中学生を対象に毎年開催されているもので、本県を本拠地とする銀行が²交代でホストを務めています（今年のホストは富山第一銀行）。参加者は、この催しによりお金（銀行券）や金融の基礎とともに、銀行の現場の見学等を通じて銀行の仕事を実感を持って学ぶことができます。誰しも生活していくうえで、お金や金融とは様々な形で一生関わっていくこととなります。この取り組みは将来を担う小中学生がお金や金融、銀行の役割について学び、正確に理解する機会を提供するもので、やや手前味噌ながらとても意味があるものだと思います。

小生も中学生のコースにおいて、「銀行の役割を知ろう」という講義を担当しました。1、2年生を主体とする約30人の元気な中学生の皆さんが受講され、小生にとっても新鮮な体験となりました。

まず、参加者の知識と理解力の高さに驚きました。例えば、銀行の仕事とは何かと問いかけたところ、「預金者からお金を預かり、お金が必要な人に貸し出すこと」という答えが返ってきました。この回答は、預金と貸し出しを関連付けたものであり、金融仲介という銀行の基本的な機能を正確に理解していることを示しています。これが分かっていたら、間接金融（ひいてはその対比としての直接金融）や金利の意味合いといったことを理解するのは容易なことです。同年代の頃、銀行とは「³軒先のおじさんが勤めているそこそこ忙しい会社」という理解しかなかった我が身と比較すると、天地の差を感じます。

また、講義に先立って寄せられた質問からは、参加者の皆さんの健全な好奇心と着眼点の的確さが窺えました。例えば、金利の機能、銀行の収益獲得の仕組みに関する質問は金融の本質に関わるものですし、「銀行券に肖像画が採用されているのは何故か」という質問は、一見素朴ながら、偽造防止の工夫および国民皆が使う「お札」の在り方といった重要なポイントを捉えています³。

¹ 富山県金融広報委員会については、http://www3.boj.or.jp/toyama/t_kinyu.htm をご参照ください。日本銀行富山事務所は、同委員会事務局として「夏休み銀行探検隊」を後援しています。

² 北陸銀行、富山第一銀行、富山銀行の3行。

³ お札に肖像画が利用される大きな理由は、①偽造防止、②利用者の親近感の涵養です（こ

講義の最後に、参加者に1億円の模擬銀行券を手にとって貰いました。1千万円（相当の模擬銀行券）ごとに帯封をかけて纏め（業界では、これを「一束」と数えます）、十束をビニールでパックにしたもので、本物のお札もこの形で金庫に保管されています。この1億円（相当の模擬銀行券）を手にしてみると、ずっしりとした重量感があります。参加者の皆さんは最初のうち少し遠慮していましたが、小生から「大人になっても中々1億円の現金を持つてみる機会はないから遠慮しないで」と呼びかけると、みんな興味津々で手にとって重みを実感していました。これも健全な好奇心の表れと感じました。

今回の参加者の皆さんが社会に出て行くのはまだかなり先のことですが、今回、彼ら／彼女らと接することが出来て、日本の（そして富山県の）将来がとても楽しみになりました。

主催者、ホスト行を初めとする関係者の皆さん、暑いさなかにいろいろとお疲れ様でした。本当に有難うございました。

以 上